

第3表

$\varphi$ y	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	28
1948~1949 Winter	+3.0	+3.1	+3.5	+2.9	+3.2	+3.3	+3.1	+2.9	+2.4	+2.2	+2.5	+1.8	+1.7	+2.0	+2.2	+1.7	+1.1
1949 Summer	-0.1	-0.3	+0.6	-0.1	-0.8	-0.1	-0.6	-0.3	+0.1	-1.0	-0.5	-1.1	-0.4	-1.1	-1.0	-0.8	-0.5

第4表

$\varphi$ y	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	30	28
1958~1959 Winter	+1.5	+1.5	+1.5	+1.5	+2.2	+2.6	+2.7	+1.9	+1.9	+1.5	+2.2	+1.7	+2.0	+1.7	+1.9	+1.6	+1.3
1959 Summer	-0.5	-0.5	-0.1	-0.1	-0.5	-0.5	-0.8	-0.5	+0.3	-0.4	+0.5	+0.3	0.0	+0.2	+0.1	+0.5	+0.3

温が週期的にあらわれそれが持続性が大きくなりつつある傾向であるのに反し、低緯度地方に行く程この反対の傾向が大であり、暖冬の後の涼夏も漸次北上している傾向にあるのも最近の気候の特徴でなからうか。

暖冬はいつまで続くであろうか、この点については広域なる上層解析を併せて分析してみないと判明しないが、高緯度地方はここ一年位が峠でなからうかと思われる。

4. む す び

前報にて最近の気候の特徴がしられたので本論にてはこの分析した結果をのべ結論は出来るだけさけた。

次報にて主要素の半旬、旬、月、季節別の緯度別度数分布の変遷等の気候学的見地からみた最近の気候について調べた結果及び長期予報の見地からみた本論を上層解析をしてみた結果について併せてのべ結論を出したいと思っている次第である。(1960. 12. 1)

気 象 界 消 息

1. 核爆発実験再開

8月30日にソ連フルシチョフ首相は核爆発実験の再開を声明し、アメリカの発表によると、9月1日以来小型爆弾(キロトン級)がセミパラチンスク(Semipalatinsk)およびスターリングラード(Stalingrad)で続けられ、9月10日以後はノバヤゼムリヤ(Novaya Zemlya)島付近で大型爆弾(メガトン級)の実験も行われている。10日の実験は日本各地の微気圧計および松地地震観測所の地震計にも感じ、ノバヤゼムリヤ島付近で実験されたことが推定された。アメリカでも9月5日に地下実験開始を声明し、ラスベガス(Las Vegas)の北65マイルの地点に作られた地下道で核爆発実験を始めた。

雨水の放射能は9月9日頃までは今回の実験による増

加らしいものは認められなかったが、9月10日頃から増加の傾向が認められるようになって来た。

2. 石川業六氏ソマリー国に出張

本学会会員、気研高層物理研究部第三研究室長の石川業六氏は、「ユネスコ技術援助計画に基づき expert teacher training に就任するため」、9月5日から1年間ソマリー国に出張される。